

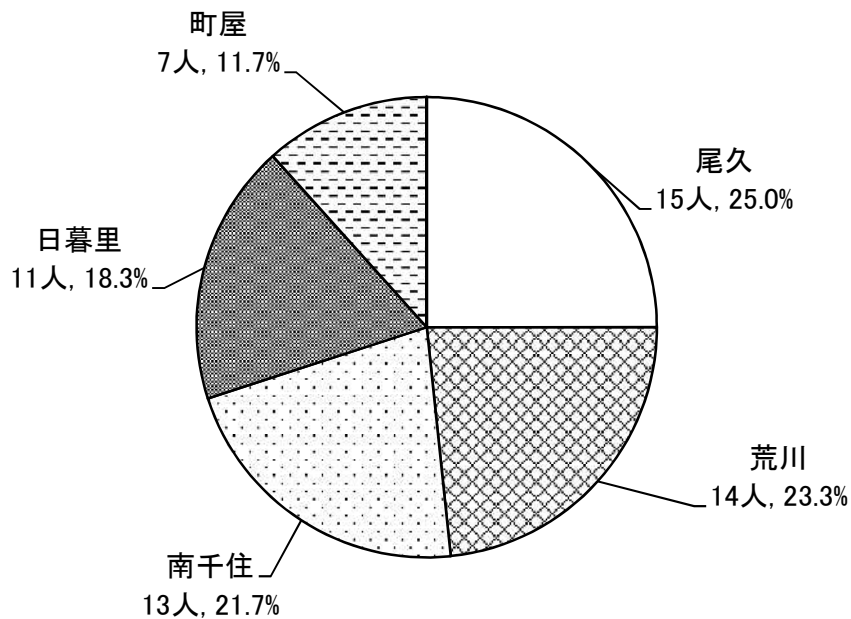
令和2年度第3回 あらかわ・Eモニターアンケート結果

◆調査の概要

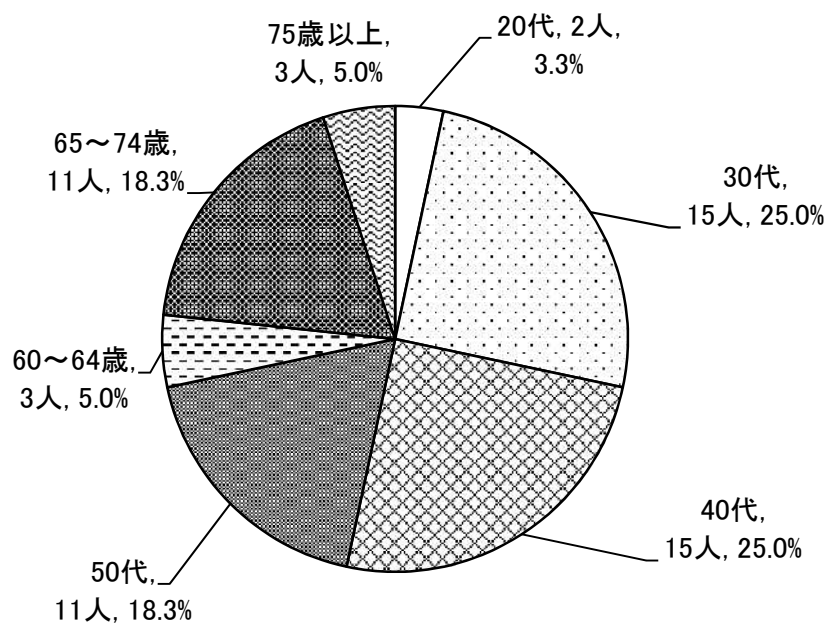
- ① 調査項目 暮らしの相談について
- ② 調査対象 令和2年度あらかわ・Eモニター 80人
- ③ 調査期間 令和2年12月16日（水）～令和3年1月3日（日）
- ④ 回答数（率）60（75.0%）

n = 比率算出の基数（サンプル数）、また、回答比率は小数点以下第2位を四捨五入しているため、合計が100%にならないものがある。

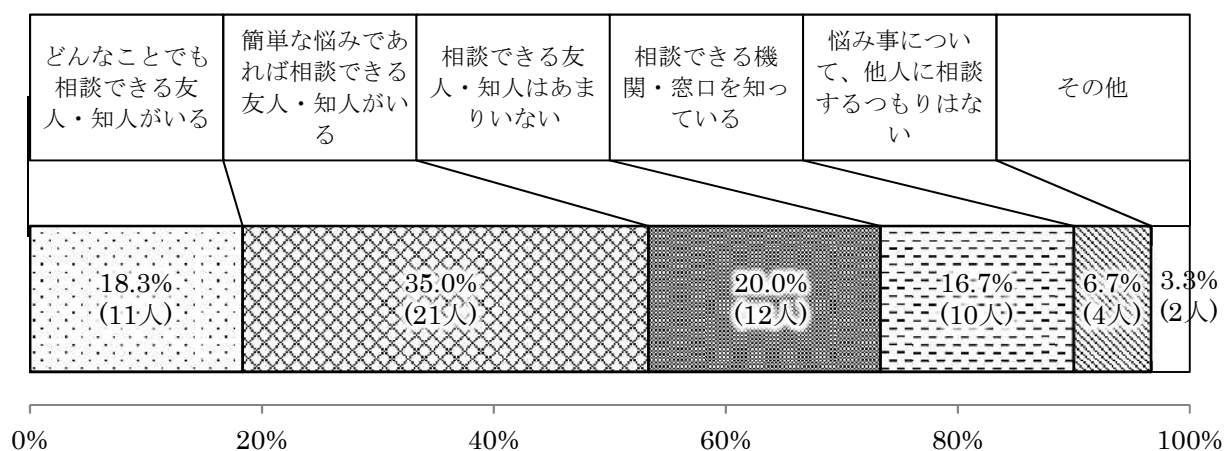
回答者地域別構成比 n=60



回答年齢別構成比 n=60



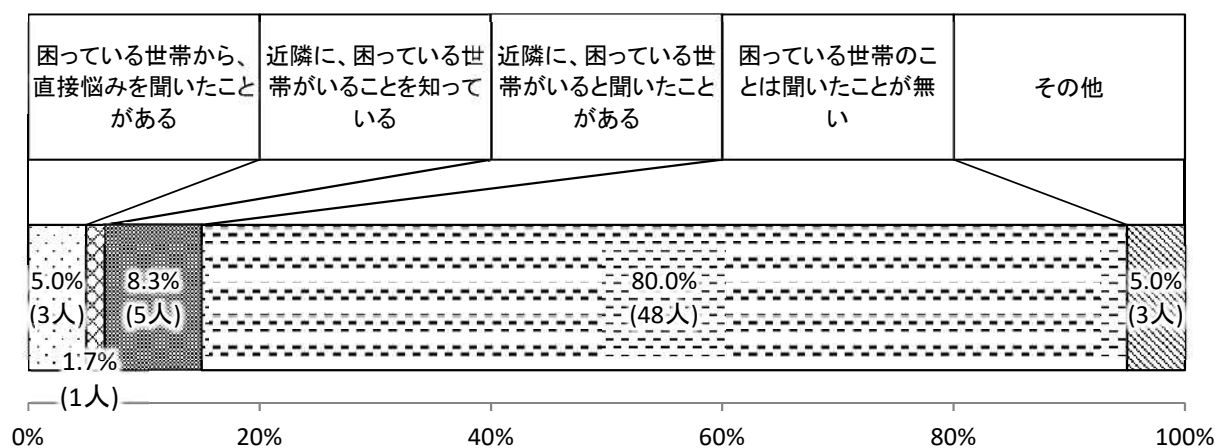
問1 ご自身またはご家族にとっての生活の困りごとがあるとき、地域や身近に相談できる友人・知人はいますか。 n=60



【その他】

- ・ 話し相手がない。

問2 生活での困りごとについて、どこに相談すればよいか悩んでいる方をご存じですか。 n=60

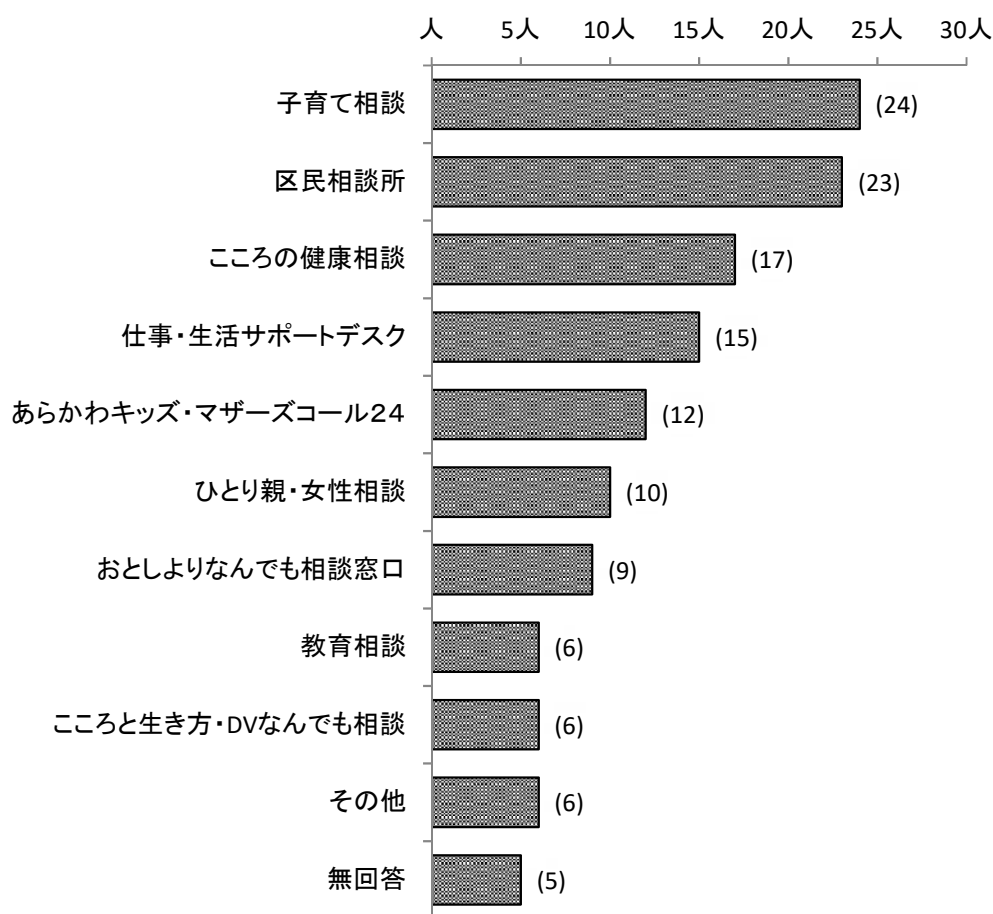


【その他】

- ・ 近隣ではないが、区内で生活困窮、育児、保育園など困っている家庭があるということを知ったことがある。
- ・ 個人個人の考え方であり勝手に相手が生活に苦労していないか大丈夫かと判断することは難しい。相手はそれなりに苦労していないと言うかもしれない。行政は本当に困った人が気軽に相談・援助するように簡単に連絡できる方法を考えてあげたほうが良いのでは無いでしょうか。
- ・ 自分自身困っていても相談できる場所はない。

問3 仕事や生活など、なにか困ったときに相談する区役所の窓口を知っていますか。

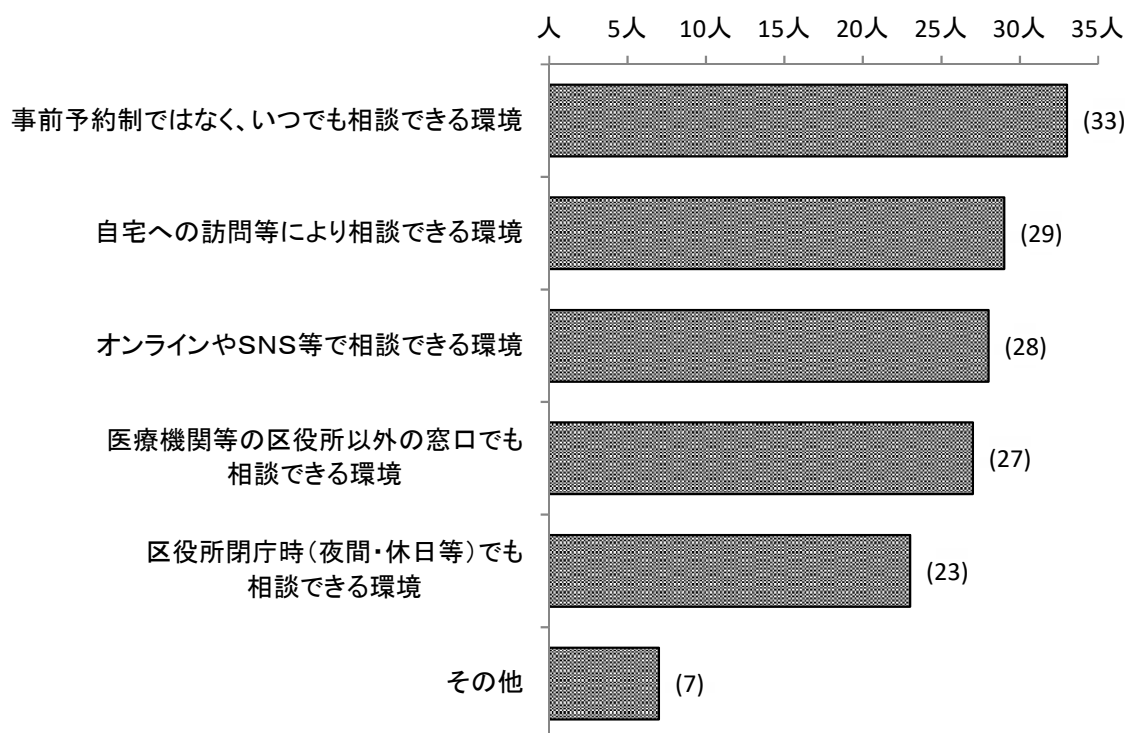
(複数回答可) n=60



【その他】

- ・ 全て知らない。
- ・ 具体的にどのような相談窓口があるのか知らないし、その相談受付の範囲も不明瞭である。個々ばらばらに相談窓口を設けている印象が感じられる。
- ・ 具体的な窓口の名前は知りませんが、担当されている窓口があるだろうくらいは知っています。
- ・ 困った時、本当に的確に相談できるようなら困っていない。なにをやったほうが良いのか全くわからないから捨て鉢になったりする。弱者が気楽に相談に乗ってもらえる場所を提供してあげてほしい。

問4 「8050問題」について、どのような支援が必要だと思いますか。(複数回答可) n=60



【その他】

- ・ 問3にあるように多くの窓口があるのだから、それに対応すれば良いと思う。8050問題のみ特別なことをしなくてもいいと思う。
- ・ 相談窓口が細分化されていると相談者が相談窓口にたどりつくのに迷うことになるのではないのでしょうか。もっと気軽に相談できる、“何でも相談窓口”を作り、その窓口が一括して相談を受け付け、相談内容により担当窓口へ引き継ぐ形にできないのでしょうか。勿論、なんでも相談には電話、Fax、メールなどで相談ができるようにして頂きたいと思います。また、他言語での相談受付も必要だと思います。
- ・ 介護施設の充実や、引きこもりでもできる仕事を考えてはどうか。
- ・ 入り口はたくさんあるといいと思います。10年後の自分の問題なので区として力を入れていただけると心強く感じます。
- ・ 借家であれば、大家さんが情報を把握している可能性が高いため、大家や不動産関係者が、気軽に区役所に相談できる環境があればよいと思う。
- ・ 長い間就労していないことなどで社会的な孤立を感じ、支援を受けずに死を迎えたい、と思われる方も多いいと思います。そのため、直接的な支援を促すだけでなく、当事者の方々の居場所となるようなコミュニティ作りも支援の1つとして有効なのではないでしょうか。
- ・ 親の介護で子が離職するというストーリーがおかしいと感じます。親が自活できない場合に、支える責任があるのは子ではなく生活保護制度ではないのでしょうか。そのため、支援としては「親を支えてあなたも困窮する前に、まずは親に生活保護を申請してもらいましょう」という周知ではないのでしょうか。

問5 その他ご意見がありましたら記入ください。(自由記入)

支援方法について

- ・ 相談する気力・体力・能力が欠如していると取り溢されてしまうので、とにかくアウトリーチ型の支援を充実させてほしいと思います。それこそマイナンバーで追跡などはできないのでしょうか？この際、有意義に活用してもらえると嬉しいです。
- ・ 8050 問題だけに限らず、住民からの働きかけだけでなく、役所の方や専門の方からアプローチをしてもらえる方が、身動きが取りにくい身としてはすごく助かります。本当に困っている人ほど、外に助けを求めることが難しいのかもしれない、と時々思います。
- ・ 最近でも親が突然亡くなりどうすることもできない子供が餓死したり、死体を放置したりというニュースを聞くたび、心を痛めている。私の感覚からすれば「困ったら相談すればよいのに」と思ってしまいが、親子とも適切な教育を受けられなかったり、社会とつながらないまま家族単位だけで生活していたり、唯一社会とつながっていた家族が亡くなったりしてしまうと、そういった感覚にならない可能性があるかも、と考えるようになった。行政としては、所得税や区民税を納めていない（働いていない）30～60代がいる世帯に対して、訪問したり、注視したりしていくことで、外部から支援の必要性について気付いていけるのではないかと。大半は徒労に終わるかもしれないが、数年に一度でもかかわりがあれば、いずれ適切な支援につなげていけるのだろうと思う。
- ・ 実際に困っている人の相談を、無料弁護士相談につなげたいと思って電話したが、その時点で区内のことは避けられました。また、地域包括支援センターに相談してもダメでした。断る際にはここに相談をと、次につなげてくれないと行き詰まってしまうのではないのでしょうか。
- ・ 事件や事故になっていなくても親身になって相談にのって頂ける環境が必要。
- ・ 企業の人事担当として、精神障害者の雇用マネジメントも担当していますが、引きこもりなどの社会的な孤立の解決策の一つに「社会参画の促進」があり、実際に有効に機能している事例があります。本人が興味のあるボランティア活動と一緒に参加することで、「自分が社会のために役立っている達成感」、「人と接することによる孤立感の解消」が明らかに有効に作用し、生きがいややりがいの気持ちが高まっています。そして、本人の就労定着やスキルアップにつながっています。全てのケースに有効ではないと思いますが、このようなアプローチも必要だと思えます。また、本人とのつながりには、SPIS（エスピス）という日報システムも活用しており、本人・就労支援機関・企業担当者の3者間でリアルタイムの状況把握をしていて、効果を上げています。SPISは国の障害者雇用推進施策としても取り入れられています。

- ・ 引きこもりは長期化する前の対応が肝心だと思う。長期化すればするほど本人は社会への対応が難しくなり親はますます焦る。8050 問題になる前の、若年層の対応をもっと充実させてもらいたい。学齢期は対応があっても青年期以降の対応は手薄。ちょっとした居場所や社会参加の手段が必要。
- ・ 8050 問題という呼び方があるとは知りませんでした。生活困窮者にはオンラインや SNS での相談は求められないと思います。今、国がマイナポイントなどを推し進めていますが、高齢者や生活困窮者のことは置いてけぼりでどんどんデジタル化を進めてしまっているような気がしてならず心配です。生活困窮していなくても、70 代以上の高齢者にはかなりハードルが高い仕組みがたくさんあります。

8050 問題について

- ・ 『引きこもりなどの理由により、社会的に孤立している期間が長期化し、主な収入を親世代が得ており、親世代に健康問題等が生じた場合、すぐに生活困窮に陥る可能性を潜在的に抱えている世帯』⇒正直なところ、この場合は助ける必要ないと思います。そうなる前に支援等は望めばありだと思いますが それらすら受けないで助けるのは単なる甘えでしかない。未成年の子どもならいざ知らず、いい年した大人なのだから。突き放し自立させる厳しさも必要だと思います。
『親世代の健康問題等により子世代が介護のために離職を余儀なくされ、前述の問題と同様に、生活困窮に陥る可能性を潜在的に抱えている場合』⇒こちらの場合は支援すべきだと思います。ただ、なぜ備えていなかったと言う気持ちもあります…。区は簡単に調べがついて制度の利用、相談がしやすい環境は整えておくべきだと思います。
- ・ 8050 問題は他人事ではなく、自分たちもそうなるのではと思う時がある。未婚の中年世代がいる所帯では、親の老々介護も深刻だが、両親ともが介護を必要となれば、果たしてその子供たちが面倒を見てくれるだろうか？という不安がある。
- ・ 「8050 問題」初めて聞きました。なるほどこのような状況もあるんですね。ますますコロナで世の中が混沌としている状態なのでひとつ転べば自分に降り掛かってくる可能性もある、嫌な世の中になりましたね。荒川区は所得も 23 区では最下位に近い位置におりますのでこれからも行政としてこの地で生活している弱者をできるだけ多く助けてあげてください。

相談窓口について

- ・ こんなに相談窓口があるのを知らなかった。どれほど活用されているのだろうか。知っている人は知っていて、利用者に偏りはないか。相談できないで、孤立している区民に手をさしのべてくれる相談窓口であって貰いたい。

- 区民相談などの相談窓口が開設されているのはとてもありがたい。区民が気軽に利用できているなら良いと思う。
- なんだか身につまされる質問ばかりでした。自分のことだ。と。母は家業を手伝った後、専業主婦。父の遺族年金はほとんど無し。子供は私1人、1人で頑張らねば。が、老齢の母が倒れたら、病気になったらどうしよう。生活できない。私にとっては近い将来訪れる他人事ではないことだと思いました。でも今回このアンケートにより、区役所にそんな相談が出来る部署があるのだと実感し、ちょっと安心しました。

その他

- 難しい問題ですが、身近に相談できる場所や人がいることが必要だと思います。
- 引きこもりなどの働きもしない人間に無駄なお金（税金）が使われない事を願います。
- 今は妻と二人暮らしで、互いに健康で仕事にも恵まれているため、行政による支援について、必要とする機会があまりなく、どうしても他人事と感じてしまうことが多い。本来はいつ自分も支援が必要な立場となるか分からないと普段からの意識づけが必要だと思うが、日々の生活に苦勞をしていないと、なかなか興味もわいてこないなので、どうしたら事前に備えられるようになるのか。良い方策があれば教えてほしい。